様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：８２４０６

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：１６Ｋ１２０８７

研究課題名（和文）一般病棟における終末期ケアを尊重する組織風土醸成プログラムの構築

研究課題名（英文）Constructing a support program to cultivate an organizational climate that respects end-of-life care in general wards

研究代表者

伴　佳子（Ban, Keiko）

防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・准教授

研究者番号：８０７２６４９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、一般病棟におけるがん患者の終末期ケアを尊重する組織風土を醸成するための支援プログラムを構築することであった。終末期ケアを尊重する組織風土がどのように形成され維持されていくのかについて調査結果を統合し、支援プログラムを構築した。一般病棟におけるがん患者の終末期ケアを尊重する組織風土醸成のためには、具体的な終末期ケアビジョンの提示と、終末期ケアに精通した看護師を中心とした組織作りが必須である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の学術的意義は、個々の看護師ではなく病棟単位に介入することにより一般病棟の組織風土を変革して終末期ケアの質を向上させるという点にある。社会的意義は、一般病棟の終末期ケアの質の向上が終末期患者と家族のQOLを向上させ、患者・家族の望む看取りを実現させる点にある。また、終末期の点滴や救命処置、在宅移行など終末期医療の見直しにも繋がり医療費の削減が期待できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to construct a support program to cultivate an organizational climate that respects end-of-life care for cancer patients in the general ward. We consolidated findings on how an organizational climate that respects end-of-life care is formed and maintained, and constructed a support program. In order to cultivate an organizational climate that respects end-of-life care for cancer patients in general wards, it is essential to present a specific end-of-life care vision and create an organization centered on nurses who are familiar with end-of-life care.

研究分野：終末期ケア

キーワード：終末期ケア　組織風土　一般病院　看護師

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

平成 26 年の人口動態調査によれば、わが国のがん死亡数は約 37 万人であり国民の３人に１人はがんにより死亡している。そして、がん患者の約８割が緩和ケア病棟以外の診療所・病院（以下、一般病棟）で亡くなっているという現状がある。多死時代に向けて死亡者数は益々増加することが予想され、在宅医療への移行が進められている。しかし、一般病棟は、在宅医や終末期がん患者にとって急変時や必要時の「後方支援」としての役割を担い、在宅で療養していても最期は一般病棟に入院する場合も多い。しかし、一般病棟の終末期ケアは十分に実施されているとはいえない。

筆者らは、がん看護専門看護師（以下 OCNS）が継続的に個々の看護師と病棟全体に対して意識を変え組織風土を醸成するように関わることで、その病棟では看取りの意識が変わり、頻繁な血圧測定等は撤廃されより患者の安寧を主眼に置いたケアがなされるように変化したことを報告した（Ban et al. 2014）。しかし、当該研究は看護師の意識と看護実践の変化に焦点を当てており、支援に関して丁寧な分析を行っていなかった。そこで、既存研究により組織風土が醸成された病棟を中心に詳細な調査を行った。

２．研究の目的

本研究の目的は、一般病棟における終末期ケアを尊重する組織風土がどのように形成され維持されていくのかについて具体的な規範を明らかにして終末期ケアを尊重する組織風土醸成のための支援プログラムを構築することである。

【用語の操作的定義】

組織風土：看護師、医師、薬剤師などの一般病棟の構成員が、直接的あるいは間接的に知覚し、彼らの終末期がん患者ケアの動機づけおよび実践に影響を及ぼすと考えられる一連の仕事環境。

終末期：余命数週間から死まで

３．研究の方法

本研究の第１段階は、既存研究の対象病棟において、OCNS 支援終了３年後の終末期ケアの現状と看護師が有効と認識した具体的な OCNS の支援を明らかにした。第２段階は、終末期ケアを尊重する組織風土がどのように形成され維持されていくのかについて具体的な規範を明らかにした。

データ収集方法は、第１段階においては、OCNS が支援した期間及び３年後も当該病棟に所属している看護師を対象に、OCNS の支援が終了し３年経過した病棟の終末期ケアの現状と、有効であった OCNS の具体的な支援について半構造化インタビュー調査を実施、逐語録を作成し、質的に分析した。第２段階においては、退職者・転属者に対象を広げて OCNS が支援した期間に当該病棟に所属していた看護師に半構造化インタビュー調査を実施、逐語録を作成し、具体的な規範について質的に分析した。

４．研究成果

第１段階においては、対象は８名、平均年齢 30.8 歳、男性１名・女性７名、であった。分析の結果、OCNS の支援終了３年後の変化は、「症状マネジメントに関するスタッフの知識・技術のレベル向上」、「終末期ケアに関して相談できる雰囲気の醸成」、「先の見通しを持った看取り期ケアの見直し」、などであった。また、OCNS の支援期間は実施していなかったが、心肺蘇生や療養場所の選択について早い段階からの意思決定支援に取り組んでいた。当該病棟は OCNS の支援後も終末期ケアを尊重する組織風土は維持され、発展していた。スタッフが有効と認識した OCNS の支援は、「定期的な勉強会による知識・技術の普及」、「実践指導による看取り期のケアの見直しと家族ケアの充実」、「デスケースカンファレンスによるグリーフケア」などであった。デスケースカンファレンスは、スタッフの思いを共有することにより終末期に関する認識の変化をもたらしていた。また、OCNS は支援したと認識していなかったが、「看護師から医師への意見具申の方法」をスタッフは有効と認識していた。

第２段階においては、対象は９名、平均年齢 32.2 歳、女性９名、であった。分析の結果、144 コード、12 サブカテゴリー、６カテゴリーに整理された。６カテゴリーは、目に見える規範（明示的規範）と目に見えない規範（黙示的規範）に分類された。明示的規範は、「具体的な終末期ケアビジョンの提示」「医師や組織からの承認」などであった。黙示的規範は、「先輩看護師の意図的な相談できる関係構築」「終末期患者／家族に関するこまめな情報共有」などであった。

終末期ケアを尊重する組織風土を形成、維持する規範について、OCNS 支援前の当該病棟の終末期ケアの現状も含めて以下に記述する。

一般病棟看護師は、患者をモニタリングして異常に対して適切な行動がとれることが必要であり、看護の質を担保するために病棟内でも OJT（On-the-Job Training）が行われている。当該病棟において、看護師は終末期がん患者の看取り前の血圧下降時に手術患者などの急変時と同様の対処をしていた。これは、血圧下降時の対処として教育されたとおりのことであり、当該病棟は救命を重視する組織風土でもあった。そのような組織風土の中に、看護師長を中心に終末

期ケアを尊重するという「具体的な終末期ケアビジョンの提示」が発せられた。そのことにより、終末期ケアに関する知識の蓄積が進み、様々なケアに関して医師や薬剤部と連携し変化が起こっていた。看護師間においては、緩和ケア認定看護師が育成され、その看護師を中心に知識を持った指導的立場の看護師達が、「先輩看護師の意図的な相談できる関係構築」を図っていた。それに伴い、「終末期患者／家族に関するこまめな情報共有」が発展していた。また、医師に対して意見を言ってはいけないという意識から、医師は協働する相手に変わるという意識の変化が起こっていた。

　明確なビジョンの提示と知識の蓄積、組織の承認など明示的な規範と看護師自身及び看護師間での黙示的規範の変化によって終末期ケアを尊重する組織風土が形成され維持されたことが示唆された。一般病棟におけるがん患者の終末期ケアを尊重する組織風土醸成のためには、具体的な終末期ケアビジョンの提示と、終末期ケアに精通した看護師を中心とした組織作りが必須である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Keiko Ban; Tatsuyo Iwasaki
２．発表標題 Educating surgical ward nurses on communicating with terminally ill cancer patients about death
３．学会等名 International Conference on Cancer Nursing (ICCN) 2016, Hongkong（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Keiko Ban, Naomi Komori, Haruna Takahashi
２．発表標題 Issues on End-of-life Care recognized by palliative care link nurses in general hospital in japan
３．学会等名 The 22st EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars), Singapore（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Keiko Ban; Tatsuyo Iwasaki;Kyoko Miyakawa;Etsuko Aoyagi; Hiroaki Sugita;Naomi Komori ; Hiromi Yamato *
２．発表標題 Cultivating an organizational climate that respects end-of-life care in surgery wards in Japan
３．学会等名 International Conference on Cancer Nursing (ICCN) 2018, Auckland（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宮川京子、伴佳子、菅原恵子、池尻操、 是木文絵、濱田彩、寺内千佳子、岩崎多津代
２．発表標題 一般病院看護師に対する緩和ケア知識教育の効果
３．学会等名 第32回日本がん看護学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Keiko Ban, Tatsuyo Iwasaki, Kyoko Miyakawa, Etsuko Aoyagi, Hiroaki Sugita, Nahoko Nagai, Haruna Takahashi, Saeko Takatsu, Chifumi Amarume, Naomi Komori, Hajime Fujimoto, Fumiko Yasukata
２．発表標題 Guidance of oncology clinical nurse specialist changed end-of-life care in the general surgery ward
３．学会等名 International Conference on Cancer Nursing (ICCN) 2017, Anaheim（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	安酸　史子 (Yasukata Fumiko) (10254559)	関西医科大学・看護学部・教授 (34417)	
研究分担者	餘目　千史 (Amarume Chifumi) (80588856)	防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・講師 (82406)	
研究分担者	椙田　広明 (Sugita Hiroaki) (00758740)	防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・助教 (82406)	
研究分担者	小森　直美 (Komori Naomi) (70438307)	防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・准教授 (82406)	
研究分担者	藤本　肇 (Fujimoto Hajime) (60772811)	防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・緩和ケア室・講師 (82406)	